

新規事業

※既存の事業を拡充することで新たに重点事業として位置付けるもの

シティプロモーション事業

関連する市長マニフェスト

ーなしー

①政策

共生・共創・行財政政策

重点施策7-4

効率的かつ安定的な行財政経営の推進

②重点施策



○ 目指す姿

③目指す姿

多様化する市民ニーズに対応した行政サービスが継続的に提供され、未来に向かって持続発展できるまちづくりが行われ、市民が安心して暮らすことができています。

○ 現状と課題

- ✓ 市民ニーズが多様化する中、限られた人員で質の高いサービスを提供するにはDX※の推進が不可欠ですが、一方で、デジタル技術に精通していない人への支援と、日々変化していく課題に対応するための職員の育成が必要です。
- ✓ 少子高齢化に伴い、人口の減少による税収減や社会保障関係費の増額による財政状況の悪化が懸念されています。将来にわたり、安心して暮らし続けるためには、持続的に発展できるまちづくりが必要です。
- ✓ 公共施設の老朽化に伴い、適正な施設管理を図るため、施設の長寿命化・複合化の検討が必要です。



○ 施策の展開方針

方針1 多様化する市民ニーズに対応したサービスの提供

急速に変化する社会情勢を背景に多様化する市民ニーズに対して、最新のデジタル技術を活用することで、効率的かつ効果的に対応するとともに、職員の育成を図り、デジタル化の流れに市民が取り残されることがないよう支援を充実させます。

④施策の展開方針

方針2 本市の特色を生かした人の流れの創出と安定した財政基盤の構築

人口減少の抑制に向けて、関係人口※の創出・拡大や移住・定住を推進し、本市への人の流れをつくるとともに、自主財源の確保や事業の見直しなどにより安定した財政基盤を構築することで、安定的な行財政経営に努めます。

方針3 効率的な行財政経営を目的とした公共施設の適正管理

公共施設の老朽化に伴い長寿命化や複合化を検討し、市有財産の活用と適正な処分を行うことにより、効率的な行財政経営に資するとともに、公共施設の適正管理を行います。

※ **DX**（デジタル・トランスフォーメーション）：ICTの浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させること。
※ **関係人口**：移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる地域外の人々のこと。

○ 目指す姿の実現に向けて重点的に取り組む事業

方針1 に基づく事業

行政DX推進事業	デジタル人材※の育成を通じて、デジタル技術を活用し、市民の満足度が向上し安心して生活できる、質の高いサービスの提供を図ります。
情報システム開発事業	市民サービスのため戦略的に情報システムを整備し、AI※などのICTを活用しながら、急速に変化する社会情勢に対応します。
電子地域通貨事業	便利で安全な非接触型のキャッシュレス決済の基盤を提供するとともに、電子地域通貨（ISECA）による給付事業を行うことで、迅速な給付と利便性の向上を図ります。
広報広聴事業	SNSをはじめ様々な情報発信媒体を使ってターゲットに応じた効果的な情報発信を行い、市民などと協働した広報活動を推進します。

方針2 に基づく事業

移住定住促進事業	オンラインや相談会への出展による移住相談や移住情報の発信等により、都市圏からの移住促進を図ります。また自立した生活圏域の形成による定住促進により定住人口の確保を図ります。
ふるさと寄附金事業	ふるさと納税制度により寄附金を募るとともに、市の魅力を全国に発信し、関係人口の創出につなげます。
市税収納率向上対策事業	税負担の公平性、納税秩序の維持などを踏まえ、安定的な自主財源の確保を実現するために、デジタル化による納税環境の拡充や滞納対策を効果的に実施し、収納率の向上を目指します。
オートレース開催運営事業	新規来場者の増加や経費の削減などにより、オートレース事業の安定的な事業運営を推進し、収益金の一部を、市の自主財源として効果的に活用します。

方針3 に基づく事業

財産管理事業	公共施設等の総合的かつ計画的な管理を目指す公共施設等総合管理計画に基づき、施設規模の適正化に向けて、更新費用の縮減とサービスの確保の両立を図ります。
事務管理事業	公共施設整備事業において、PPP※/PFI※手法導入に関する優先的検討の基本方針に基づき、PPP/PFI手法の導入を進め、官民連携の促進を図ります。

○ 成果指標

方針	指標名	現状値 （令和5年度）	目標値 （令和11年度）
方針1	諸証明発行におけるマルチコピー機利用率	22.7%	40.0%
方針2	経常収支比率	94.0%	95.0%未満（令和10年度）
方針3	施設床面積の合計	629,781m ² （令和4年度）	629,781m ² 以下 （令和10年度）

○ 関連計画

（仮称）DX推進計画 公共施設等総合管理計画 第4次定住自立圏共生ビジョン

※ **デジタル人材**：ICTの知見を持った上で、自治体におけるDXの推進を担う職員。
※ **AI**：Artificial Intelligence（人工知能）の略称で、人間の思考プロセスと同じような形で動作するプログラム、あるいは人間が知的と感じる情報処理や技術といった広い概念で理解されているもの。
※ **PPP**：Public Private Partnershipの略称で、公共施設等の整備等を行政と民間が連携して行うことにより、民間の創意工夫等を活用し、財政資金の効率的利用や行政の効率化等を図るもの。
※ **PFI**：Private Finance Initiativeの略称で、PFI法に基づき、公共施設等の整備等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う手法。

前期アクションプラン重点事業〔事前〕評価 調書

事業名		シティプロモーション事業		1 新規		
部局名		企画部		課名	企画調整課	
総合計画での位置付け	政策・重点施策	政策	【7】 共生・共創・行財政政策			
		重点施策	【7-4】 効率的かつ安定的な行財政経営の推進			
		目指す姿	【7-4】 多様化する市民ニーズに対応した行政サービスが継続的に提供され、未来に向かって持続発展できるまちづくりが行われ、市民が安心して暮らすことができています。			
		施策の展開方針	【7-4】 方針2：本市の特色を生かした人の流れの創出と安定した財政基盤の構築			
	重点プロジェクト（総合戦略）	重点プロジェクト	② 産業活性化プロジェクト			
		取組の方向性・目指す地域の姿	② 関係人口の創出と地方居住の推進			
予算科目 1		2-1-7-2-0シティプロモーション事業				
予算科目 2						
予算科目 3						
予算科目 4						
予算科目 5						
予算科目 6						
予算科目 7						

1 事業の概要（事業全体）

⑤事業の目的

①事業の目的	市民のシビックプライドを醸成し、本市の認知度や魅力度の向上につなげ、人口流出を抑えさらには本市へ訪れる人の流れを創出する。		
②事業の内容	- 本市の特長や地域資源を生かしたイベントの開催及び情報発信。 - PRキャラクター「くわまる」の活用を推進。 - 市公認テーマソング「綾」の普及を目的としたイベントの開催。		
③事業の対象者	市民、市外の人		
④事業実施の背景・必要性	現状と課題	- 本市の特長や地域資源を生かしたイベントが少ない。 - 本市の魅力を効果的に情報発信できていない。 - PRキャラクターくわまるのイベントへの出演数が少ない。 - 市公認テーマソング「綾」の市民の認知度が低い。	
	課題の要因	- 本市の特長や地域資源の掘り起こしができていない。 - 職員の人員不足などにより、くわまるのイベントへの出演数が少ない。 - 市公認テーマソング「綾」を披露する機会を創出できていない。	
	本市固有の事情	シティプロモーションを担当する部署がないため、職員のシティプロモーションに対する知識がない。	
	市民等からの声	- くわまるのグッズ販売や啓発品について問い合わせがあります。 - くわまるのプロモーション方法について問い合わせがあります。	

⑥課題の要因

既存事業の有無	・PRキャラクター「くわまる」によるシティプロモーション活動 ・市公認テーマソング「綾」の制作 ・本市に所縁ある漫画家とのコラボイベント								
先進事例	・ぐんまちゃん（群馬県）、ふっかちゃん（深谷市）、ころとん（前橋市）、みどモス（みどり市） ・テーマソング「この街が好き」プロジェクト（枚方市） ・まちじゅうエヴァンゲリオン（山口県宇部市）、水木しげるロード（鳥取県境港市）								
要因の解消策	⑦要因の解消策 ・本市の地域資源を掘り起こし、効果的な情報発信を継続的に実施する。 ・PRキャラクター「くわまる」や公認テーマソング「綾」を活用したシティプロモーションを実施する。								
国・県補助金、地方債等の特定財源の状況	・本市に所縁ある漫画家とのコラボイベントの実施について、第2世代交付金（内閣府、補助率1/2）を活用。 ・くわまるのプロモーション活動について、第2世代交付金（内閣府、補助率1/2）を活用。 ・市公認テーマソング「綾」の普及イベントの実施について、第2世代交付金（内閣府、補助率1/2）を活用。								
⑤事業実施により目指す成果	市民のシビックプライドを醸成し、本市の認知度や魅力度の向上し、人口流出を抑え、本市へ訪れる人が増える。								
⑥目標（KPI）	指標名	単位		R5（基準値）	R7	R8	R9	R10	R11
	くわまるInstagramフォロワー数（累計）	人	目標			1,000.0	1,250.0	1,500.0	1,750.0
			実績						
	くわまるのイベント出演数	回	目標			35.0	40.0	40.0	40.0
			実績	29.0					
	伊勢崎市プロモーション動画の再生数（累計）	回	目標			25,000.0	30,000.0	35,000.0	40,000.0
			実績	14,628.0					
			目標						
			実績						
			目標						
			実績						
			目標						
			実績						
			目標						
			実績						
			目標						
			実績						
			目標						
			実績						
			目標						
			実績						
		目標							
		実績							
効果検証の方法		・くわまるInstagramのフォロワー数の確認 ・くわまる着ぐるみ貸し出し件数の確認 ・YouTubeでの伊勢崎市プロモーションビデオ再生数の確認							

◇ 重点事業を休止（または廃止）する理由

2 事業実施の具体的方法・手段（事業全体）

		実施内容		
R 7	【くわまる】 ・市が主催・共催などをするイベントにおいてくわまるを多数出演させる。 ・くわまるのカプセルトイの設置や、くわまるの啓発品を制作し配布する。 ・市のホームページにくわまるの特設サイトを設置し、くわまるの活動やくわまるグッズ情報などを周知する。 【公認テーマソング「綾」】 ・市民が「綾」の音楽を耳にする機会や、伊勢崎市プロモーションビデオを見るきっかけを増やす。 ・公認テーマソング「綾」の普及を目的としたイベントの開催。 【その他】 ・市に所縁のある漫画家とのコラボイベントを実施する。	事業費（千円）		
		歳出合計		
			22,227	
		財源内訳	国庫支出金	2,475
			県支出金	0
			地方債	0
その他	0			
一般財源	19,752			
⑧R8～R11実施内容				
実施内容				
R 8	【くわまる】 ・市が主催・共催などをするイベントにおいてくわまるを多数出演させる。 ・くわまるのカプセルトイの設置や、くわまるの啓発品を制作し配布する。 ・くわまるを主役としたイベントを開催する。 ・くわまるの公式インスタグラムを開設し、市ホームページとともに市の魅力情報を随時発信する。 【公認テーマソング「綾」】 ・市民が「綾」の音楽を耳にする機会や、伊勢崎市プロモーションビデオを見るきっかけを増やす。 ・公認テーマソング「綾」の普及を目的としたイベントの開催。 【その他】 ・市に所縁のある漫画家とのコラボイベントを実施する。	事業費（千円）		
		歳出合計		
			28,456	
		財源内訳	国庫支出金	11,760
			県支出金	0
			地方債	0
その他	0			
一般財源	16,696			
実施内容				
R 9	【くわまる】 ・市が主催・共催などをするイベントにおいてくわまるを多数出演させる。 ・くわまるのカプセルトイの設置や、くわまるの啓発品を制作し配布する。 ・くわまるを主役としたイベントを開催する。 ・くわまるのSNSを利用し、市の魅力情報を随時発信する。 【公認テーマソング「綾」】 ・市民が「綾」の音楽を耳にする機会や、伊勢崎市プロモーションビデオを見るきっかけを増やす。 ・公認テーマソング「綾」の普及を目的としたイベントの開催。 【その他】 ・地元団体と連携し、市に所縁ある漫画や漫画家とのコラボイベントを実施する。	事業費（千円）		
		歳出合計		
			-	
		財源内訳	国庫支出金	-
			県支出金	-
			地方債	-
その他	-			
一般財源	-			
実施内容				
R 10	【くわまる】 ・市が主催・共催などをするイベントにおいてくわまるを多数出演させる。 ・くわまるのカプセルトイの設置や、くわまるの啓発品を制作し配布する。 ・くわまるを主役としたイベントを開催する。 ・くわまるのSNSを利用し、市の魅力情報を随時発信する。 【公認テーマソング「綾」】 ・市民が「綾」の音楽を耳にする機会や、伊勢崎市プロモーションビデオを見るきっかけを増やす。 ・公認テーマソング「綾」の普及を目的としたイベントの開催。 【その他】 ・地元団体と連携し、市に所縁ある漫画や漫画家とのコラボイベントを実施する。	事業費（千円）		
		歳出合計		
			-	
		財源内訳	国庫支出金	-
			県支出金	-
			地方債	-
その他	-			
一般財源	-			
実施内容				
R 11	【くわまる】 ・市が主催・共催などをするイベントにおいてくわまるを多数出演させる。 ・くわまるのカプセルトイの設置や、くわまるの啓発品を制作し配布する。 ・くわまるを主役としたイベントを開催する。 ・くわまるのSNSを利用し、市の魅力情報を随時発信する。 【公認テーマソング「綾」】 ・市民が「綾」の音楽を耳にする機会や、伊勢崎市プロモーションビデオを見るきっかけを増やす。 ・公認テーマソング「綾」の普及を目的としたイベントの開催。 【その他】 ・地元団体と連携し、市に所縁ある漫画や漫画家とのコラボイベントを実施する。	事業費（千円）		
		歳出合計		
			-	
		財源内訳	国庫支出金	-
			県支出金	-
			地方債	-
その他	-			
一般財源	-			

3 事業の分析・部内評価

I 妥当性	目的の妥当性	(1) 本事業の対象（受益者）は、住民ニーズや本事業の背景にある課題を解決するにあたって妥当である。	4
		(2) 社会環境や住民のニーズを考慮して、本事業の目的は妥当である。	4
	手法の妥当性	(3) 目的の達成に向けて、本事業の実施手法は妥当である。	5
	市関与の妥当性	(4) 本事業の実施主体は市であることが適切である。（国、県、市の役割分担は妥当である、又は、公平性や公共性の観点から、企業や住民団体、NPO等が実施する余地はない。）	5
II 有効性	事業の有効性	(1) 本事業の内容は、「1-⑤事業実施により目指す成果」及び目標（KPI）の達成に寄与するものとなっているか。	5
	指標の有効性	(2) 本事業の目標（KPI）の達成が、「1-⑤事業実施により目指す成果」の達成に寄与するか。	5
	計画の有効性	(3) 事業実施の具体的方法・手段は、目標（KPI）の達成や「1-⑤事業実施により目指す成果」を実現するものとなっているか。	5
	類似性の確認	(4) 国、県、民間団体や他の部局において、同じような事業は実施していない。（重複や過剰なサービスになっていない。）	5
III 効率性	コスト効率	(1) 事業実施の過程に無駄はない。（単位当たりのコストは減少している。）	4
	コスト削減	(2) 事業の実施方法の適正化や電子化、人員の見直し等を行っても、これ以上、コスト削減の余地はない。	3
	実施主体の適正性	(3) 事業の実施手段は最適であり、民間委託等を含め、よりよい代替案はない。	5
	負担割合の適正性	(4) コスト全体に占める市の負担（補助）割合は適正であり、これ以上の受益者負担は求められない。	5
合計点			55
評価			A
部局長等の評価・意見	課長 （一次評価）	本市の魅力や特色を効果的にPRすることは、市民の誇りや結束力を高め、かつ市外から本市への人の流れを創出するきっかけにも繋がることから、本事業を実施することは必要である。	
	副部局長 （二次評価）	将来の人口減少社会を見据え、本市ならではの魅力や地域資源を見出しそれを効果的に市内外へ情報発信していくことで、交流人口や関係人口を増やし、さらには移住者の増加にも繋がるため、必要な事業である。	
	部局長 （三次評価）	本事業の部内での優先度	中
		総合評価	計画通り事業を進めることが適当
本市の魅力や特色を適切かつ効果的に発信し、市民だけでなく市外の人を含め、より多くの人々に知ってもらうことは、観光面だけでなく、地域経済への貢献や住民の誇りの向上にも繋がるため、必要な事業である。			

<最終評価>

事業実施の方向性	#VALUE!
	#VALUE!
コメント	

シティプロモーション事業について

企画部企画調整課

シティプロモーション事業について

NEW

○くわまる

着ぐるみの貸し出し

くわまるデザインの制作

啓発品（ノベルティグッズ）の制作

くわまるの年賀状

くわまるカプセルトイの販売

（仮）くわまるの誕生日会

他自治体のゆるキャラを招待 → ファンの増加

（仮）くわまるの部屋（Instagram）の開設

定期的な投稿 → 発信

○テーマソング「綾」

本市「テーマソング」に公認（R 5）

学生無料招待コンサート（R 6）

（仮）高校生バンドコンテスト

高校生軽音楽系バンド（10組程度）

○コラボイベント

「日常」コラボイベント（R 6）

漫画とのコラボイベント（R 7）

（継続）市に所縁のある漫画、漫画コラボイベント

伊勢崎市PRキャラクターくわまるの活動実績



【名 前】 くわまる
 【誕生日】 9月8日
 【性 別】 男の子

平成26年に田島弥平旧宅の世界遺産登録を応援するために誕生し、現在は田島弥平旧宅だけでなく伊勢崎市のPRキャラクターとして活動中

着ぐるみの貸し出し

市が主催・共催・後援・協力などをするイベントにおいてくわまるの着ぐるみを貸し出しています。

くわまるデザインの制作

毎年、くわまるの新規デザインを制作しています。

デザインは市ホームページで公表し、申請をすることで無料で使用ができます。

啓発品（ノベルティグッズ）の制作

くわまるのデザインを使用した啓発品を制作し、市のイベントなどの参加者に配布をしています。

制作物例）クリアファイル、マスキングテープ、缶バッジ、ペーパークリップ等

くわまるの年賀状

毎年1月にくわまる宛に年賀状を送付していただいた方に、くわまとその年の干支がコラボしたオリジナル年賀状を送付しています。

くわまるカプセルトイの販売

令和6年度よりくわまるグッズを景品としたカプセルトイを制作し、市のイベントなどで設置し販売しました。

昨年度の景品：くわまるアクリルキーホルダー（5種）、くわまるマスコット



【仮称】いせさき「綾」高校生バンドコンテスト(案)

日 程

令和8年7月～8月

会 場

メガネのイタガキ文化ホール伊勢崎（小ホール）

内 容

高校生軽音楽系バンドによるコンテスト（10組程度）1組20分
演奏2曲、20分以内
・1曲目 LACCOTOWER「綾」
・2曲目 自由曲

参加資格

市内の高校生 軽音楽系バンド
（条件：市内高校軽音楽部所属のバンドであること）

募集方法

- 市内県立高校にポスターとチラシを配布
- 申請はオンライン又は申請書提出。申請時にバンドの演奏動画を提出してもらう。

参 加 費

無料

予 算

約3,400,000円（企画運営、備品準備、会場借上、副賞代など）

副 賞 (特 典)

審査をし、グランプリ、準グランプリ、3位、参加賞等を決定する。
【副賞（案）】

- 「IROCKS2027」（R9.4月頃開催予定）出演
- DUST BOWL 練習スタジオ利用券
- LACCOTOWERからの演奏指導受講
- ISECAポイント など
- 「IROCKS2027」（R9.4月頃開催予定）無料招待券

審 査 員

LACCOTOWER、地元バンド（秀吉など）、市長、教育長、ライブハウススタッフ等。
1バンドの演奏が終了するごとに、いずれか1名に講評してもらう。

そ の 他

全演奏終了後の審査中、市内高校の吹奏楽部に「綾」等を演奏してもらう。

▼ながの高校生バンドコンテスト2024の様子（令和7年3月13日 長野市が実施）



伊勢崎市×日常 コラボイベント実施内容

伊勢崎市誕生20周年記念事業として、群馬県立伊勢崎商業高等学校出身の人気漫画家あらゐけいイチ氏の大人気作品「日常」と伊勢崎市とのコラボイベントを開催した。

- 【イベント名称】伊勢崎市×日常
 【イベント期間】令和6年9月21日(土)～10月20日(日)
 【イベント内容】下記のとおり
 【参加者数】2,774人(スタンプラリー達成者数)、
 5,776人(イベントマップ配布数)

①スタンプラリー

下記の全6カ所に設置したスタンプを集め、コンプリートした人はA5サイズのイラストボードをプレゼント。

- Auto Mirai華蔵寺遊園地
- いせさき明治館
- 伊勢崎市図書館
- 伊勢崎神社
- 境赤レンガ倉庫
- 伊勢崎駅前インフォメーションセンター



②Auto Mirai 華蔵寺公園遊園地 乗り物チケット購入特典

280円以上の乗り物チケットを購入した人にノベルティカード(名刺サイズ)をプレゼント。



③複製原画の展示

漫画「日常」複製原画の展示

- スマーク伊勢崎 令和6年9月21日(土)～29日(日)
- 駅前インフォメーションセンター 令和6年10月5日(土)、6日(日)
- 境赤レンガ倉庫 令和6年10月13日(日)、14日(月祝)



④お買い物ラリー(全8店舗)

対象店舗で条件を満たす買い物等をした人に、店舗ごとのノベルティカードをプレゼント。



⑥描きおろしグッズ販売

- スマーク伊勢崎 令和6年9月21日(土)～9月29日(日)
- 華蔵寺公園遊園地(売店) 令和6年9月30日(月)～10月20日(日)



⑤キャラクターパネルの設置

①スタンプラリーと同場所に6種類のキャラクターパネルを設置。



■イベントの効果について(アンケート抜粋:回答者数541人)

- イベントの満足度
 - －満足またはやや満足 494件(91%)
- また「日常」のコラボイベントがあったら
 - －参加したい 509件(94%)
- お買い物ラリー及びスタンプラリー協力施設(9カ所)
 - －次回も積極的に参加する 7件(78%)
 - －条件によっては協力する 2件(22%)

9割を超える回答者から、満足、また参加したいとの声をいただいた。また、協力店舗からもまた協力したいとの声をいただいた。これらのことから、イベントを実施したことで一定の効果が得られたと考えられ、今後も引き続き実施していきたい。